

ポ イ サ ル ン ク ル
(13) POYSAR UN KUR

小沙流の人

サケヘ ヘイヌ
sákehe: heynu

折り返し：ヘイヌ
折り返し1.5拍、歌詞だいたい1行5～5.5拍

ツ ル
Curu

平村つる（二風谷）

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|----|---------------|
| ヘイヌ
heynu | [ウ]ポイスアルン クル
[u]Poysar un kur | 1 | ヘイヌ 小沙流の人の |
| ヘイヌ
heynu | [ウ]キリケウ カシ
[u]kirkew kasi | 2 | 膝の上を |
| ヘイヌ
heynu | [ウ]チヨレポレフ
[u]c-óreporep | 3 | トントンたたきながら |
| ヘイヌ
heynu | エネ イタカシ、
ene itak-as hi, | 4 | 私はこう言いました。 |
| ヘイヌ
s heynu | 「メナスン マタナツ
"Menas un mat anak | 5 | 「メナシの女は |
| ヘイヌ
heynu | スウォフ アサム タ
suwop* asam ta | 6 | 箱の底に |
| ヘイヌ
heynu | シサク チュコセシケフ
sisak cúkoseskep | 7 | めずらしい内緒の隠し財産を |
| ヘイヌ
heynu | [ウ]コロ ベ ネ ナ。
[u]kor pe ne na. | 8 | 持っているのです。 |
| ヘイヌ
heynu | スウォフ アサム タ
suwop* asam ta | 9 | 箱の底に |
| ヘイヌ
10 heynu | シサク ウウエウンベ
sisak uweunpe | 10 | 珍しい宝刀を |
| ヘイヌ
heynu | [ウ]コロ ベ ネ ナ。
[u]kor pe ne na. | 11 | 持っているのです。 |

1) 折り返しは **he-inu** ヘ・イヌ（ヘー（掛け声）・聞きなさい）とも解せるが「類歌」を参照。
Poysar ポイサラ（<pon-sar ポン・サツ《小さい・草原》）は《小沙流》、歌い手のつるさんによれば沙流川の川下の地域を指し、Poysar un kur ポイサツ・ウン・クル《小沙流の人》は、沙流川の川下の方の男の人だろうとのこと。
5) Menas メナシは沙流地方から見て静内・釧路の方の地域。
6,9) ikor asam ta イコロサムタと言っているが、ikor イコロ は間違いで suwop スウォフ（箱）が正しいとの歌い手つるさん自身の言葉により、テキストを訂正した。

10) uweunpe ウウエウンベ は《ちゃんとさやにささった刀》。

ヘイヌ heynu	アピッカレンカピ a=pirkarenkapi	12	私の考えたとおりに	12) 主人公のメナシの女の自叙に、4行目までは、古くからの神謡の形を保って1人称複数形が使われているが、12行目からは、一般の引用文や伝承と同じく、不定人称形に変わっている。
ヘイヌ heynu	イコレンカ ワ i=korenka wa	13	考えて	
ヘイヌ heynu	アピッカイエピ a=pirkayepi	14	私の言うとおりに	
ヘイヌ heynu	イコレンカ ワ i=korenka wa	15	承知して	
ヘイヌ 5 heynu	イコロバレ ヤン。 i=korpare yan.	16	くださいませ。	16) heynu ヘイヌ が heyyo ヘイヨ と発音されているが、舌がもつれたためである。
ヘイヌ heynu	アユッケハウエ a=yupkehawe	17	私のせいであなたが 人々から	17) yupke-hawe ユッケ・ハウエ(厳しい・声)は、とがめのキャラクター。
ヘイヌ heynu	エコアン ヤクン e=koan yakun	18	厳しい談判を受けた なら、	
ヘイヌ heynu	エコツチャケ タ e=kotcake ta	19	あなたの前に	19) あなたに代わって。
ヘイヌ heynu	イレンカトウイエ irenkatuye	20	罰金を出して謝り	20) 言葉の途中で息つきをしているが、irenkatuye イレンカトウイエである。
ヘイヌ 10 heynu	アキ クシ ネ ナ a=ki kus ne na	21	ますから、	
ヘイヌ heynu	イコラモシマ i=koramosma	22	どうか承諾して	
ヘイヌ heynu	イコレ キ ヤン。』 i=kore ki yan."	23	ください。』	23) ki キ は韻律上入ったもの。
ヘイヌ heynu	セコロ イタカン アワ sekor itakan awa	24	と私は言いましたけれど、	24,25) n ンの発音に注意。「ン」の音ではない。
ヘイヌ heynu	[ウ]ネッ ウェン イタッ [u]nep wen itak	25	なにか悪口でも	
ヘイヌ 15 heynu	アイェ ロク ベコロ a=ye rok pekor	26	私が言ったみたいに	
ヘイヌ heynu	[ウ]ナン クルカシ [u]nan kurkasi	27	彼の顔のおもてに	27) nan-kurkasi ナン・クルカシ《顔・の上一面》
ヘイヌ heynu	[ウ]コロ ウェンプリ [u]kor wenpuri	28	その腹立ちが	
ヘイヌ heynu	[ウ]チョピラサ。 [u]cópirasa.	29	一面に現れました。	29) c-o-pirasa チ・オ・ピラサ《される・(そこ)に・広げる》は《そこ(顔一面)に広がった》。
ヘイヌ heynu	[ウ]ホントモ タ [u]hontomo ta	30	そのさなかに	

ヘイヌ heynu	[ウ]マッコサンパ [u]matkosanpa	31	彼はパッととび起きて	31) t ッの発音に注意。makkosanpa マッコサンパ(バット開く)とは違う。
ヘイヌ heynu	[ウ]ソサモツペ [u]sosamotpe	32	横の壁に掛かった刀を	32) 歌い手のつるさんによれば、壁の上の方の、イナウ(木階)の掛かっている所に下げてある刀。
ヘイヌ heynu	[ウ]テッサイカレ [u]teksaykare	33	サッと手にとり	34) yay-sirko-otke ヤイ・シリコ・オツケ(自分・強く・...を突く)、自分の体をギョッと刺した。
ヘイヌ heynu	ヤイシリコオツケ yaysirkootke	34	自分の体を刺しました。	
ヘイヌ 5 heynu		35		
オロ タ アッパアン oro ta arpa=an		36	そこに私は行って	36) ここから49行目まで節なしの語りになっている。
ネ エムシ アエタイエ、 ne emus a=etáye,		37	その刀を引き抜き、	
「ナニ エライ クシ ネ ア ヤク "nani e-ray kus ne a yak		38	「あなたがすぐ死ぬことになっていたのなら、	
エムシベ ケムコヤワウケ emusipe kemkoyawawke		39	刀身についた血が乾いてドロリ となるでしょう。	
エシクヌ クシ ネ ア ヤクネ 10 e=siknu kus ne a yakne		40	生きることになっていたのなら、	
ケムコトウシトウシケ ナ。」シコロ kemkotustuske na." skor		41	生血がそのまま流れるでしょう から。」と	
イタカン コロ itak=an kor		42	言いながら	
ネア エムシ アエタイエ アクス néa emus a=etáye akusu		43	その刀を引き抜きますと、	
ケムコヤワウセ。 15 kemkoyawawse.		44	血が乾いてドロリとなりました。	44) 39行目の kemkoyawawke ケムコヤワウケと同じ。-ke ケも
「ナニ エライ ペ ネ ヤクン "nani e-ray pe ne yakun		45	「あなたがすぐに死ぬのでしたら、	-se セも擬音・擬態の動詞を作る接尾辞(...という、...となる)。
アシヌマ カ ラヤン ワ。」 asinuma ka ráy=an wa."		46	私も死にますわ。」	
セコロ ハウエアナン コロ sekor hawean=an kor		47	と言いながら、	
ネア エムシ アニ néa emus ani		48	その刀で、	
ヤイシリコオツケアン。 yaysirkootke=an.		49	私は自分の体を刺しました。	

イテメニ カ タ itemeni ka ta		50	天井の梁の上に	
ヘイヌ heynu	アモンラチチ a=monracici	51	私は手をダランと下げて	51) mon-racici モン・ラチチ《手・をダランと下げている》。神謡の中で神である鳥獣が死んだ場面によく出てくる言葉。
ヘイヌ heynu	アナン ルウェ ネ。 án=an ruwe ne.	52	いたのですでした。	52) uyan... ウヤン... と聞こえるが、歌い手つるさん自身が án=an アナンと訂正した。
ヘイヌ heynu	リクンスイ カリ rikunsuy kari	53	煙出し穴を通して	53) rikun-suy リクン・スイ《上方の・穴》は、煙を出すために屋根の下のいちばん高いところにあけてある穴。
ヘイヌ 5 heynu	ソヨテルケアン ナ。 soyoterke=an na.	54	私は外へ飛び出しました。	
ヘイヌ heynu	[ウ]ウラン ルイカ [u]úrar ruyka	55	白い雲が橋になって	
ヘイヌ heynu	[ウ]アッパ ル コ [u]arpa ru ko	56	先へと伸びて行き	
ヘイヌ heynu	[ウ]マクナタラ。 [u]maknatara.	57	明るく光っています。	
ヘイヌ heynu	[ウ]ウラン ルイカ [u]úrar ruyka	58	白い雲の橋を	
ヘイヌ 10 heynu	アヤヨテルケレ a=yayóterkere	59	渡って進んで	59) 字余りのため最後の re レを落としている。yay-oterke-re ヤイ・オテルケ・レ《自分・(そこ)を踏む・させる》は雅語で、《(そこ)を通して進んでいく》。
ヘイヌ heynu	アッパアン アイネ arpa=an ayne	60	行きますと、	
ヘイヌ heynu	インネ コタン アン。 inne kotan an.	61	人の大勢住む村がありました。	
ヘイヌ heynu	コタンバ ワノ kotanpa wano	62	村の入口で	62-63) 死後の国に着いたわけである。wano ワノは直訳すると《から》。村の入口に犬がいてそれが私を見つけた。
ヘイヌ heynu	セタ イイエミタ ナ。 seta i=emik na.	63	私は犬にほえられました。	
ヘイヌ 15 heynu	ウタッコロクク チセ ソイ タ utarkorkur cise soy ta	64	村おさの家の門口に	64) 8音節、2行分の歌詞が入っており、前半を早口で歌っているがまだ1拍半分ぐらい余計に時間がかかっている。
ヘイヌ heynu	アッパヤン アワ arpa=[y]an awa	65	行きましたが、	66) toska トスカ は、本来《川堤(土手、堤防)》で、たくさんの集まりを言う。
ヘイヌ heynu	メノコポ トッカ menokopo toska	66	娘たちの一群	
ヘイヌ heynu	オッカイポ トッカ okkaypo toska	67	若者たちの一群が	
ヘイヌ heynu	イユタ コロ オカ。 iyuta kor oka.	68	白でヒエつきをしています。	

ヘイヌ heynu	チセ オンナユン cise onnay un	69 家の中から	69) un ウン は方向を表し、よく《...へ》と訳されるが、見える方向や聞こえる方向を指すのにも使われる。ここでは聞こえる方向。
ヘイヌ heynu	[ウ]ポイスアルン クル [u]Poysar un kur	70 小沙流の人が	
ヘイヌ heynu	イヨンヌツッパ ハウエ iyonnuppa hawe	71 訴えている声が	
ヘイヌ heynu	[ウ]カッコウ ハウ ネ [u]kakkok haw ne	72 カッコウの声みたいに	
ヘイヌ 5 heynu	[ウ]オウセ テレケ [u]owse terke.	73 はっきり聞こえてきます。	
ヘイヌ heynu	[ウ]キ アクス [u]ki akusu	74 そうすると	
ヘイヌ heynu	[ウ]「ネ ヤカイエ メノコ [u]"ne yak a=ye menoko	75 「そういう悪い女	
ヘイヌ heynu	ホイヨ メノコ hoiyo menoko	76 精神の悪い女が	
ヘイヌ heynu	[ウ]エツ ワ ネ ナ [u]ek wa ne na	77 来ているぞ。	
ヘイヌ 10 heynu	ニスコタウキ ヤン！ nisukotawki yan!	78 白に入れて鎌で突け！	
ヘイヌ heynu	ニスコオツケ ヤン！" nisukootke yan!"	79 白に入れて杵で突け！	
ヘイヌ heynu	[ウ]ハワシ アワ [u]háwas awa	80 という声でしたが、	
ヘイヌ heynu	[ウ]スンケ イタク [u]sunke itak	81 でたらめを	
ヘイヌ heynu	アイエ ハウエ ネ クナク a=ye hawe ne kunak	82 言っているのだと	
ヘイヌ 15 heynu	アラム アワ a=ramú awa	83 私は思っていますと、	
ヘイヌ heynu	ニスコオツケ nisukootke	84 白に入れて杵で突き、	
ヘイヌ heynu	アイニスコタウキ。 a=i=ńisukotawki.	85 私は白に入れられて鎌で突かれました。	
ヘイヌ heynu	[ウ]キ ロク アイネ [u]ki rok ayne	86 さんざんやられたあげく	
ヘイヌ heynu	モシッカラムイ mosirkar-kamuy	87 国造りの神様が	

ヘイヌ heynu	イクムヌ クス i=kemnu kusu	88	私をあわれんで	
ヘイヌ heynu		89		
ケンボチカッポ ネ kempocikappo ne		90	赤血鳥に	90) ここから最後まで語りになっている。kem-po-cikap-po ケム・ポ・チカッ・ポ (血・(指小辞)・鳥・(指小辞))は、歌手のつるさんによれば「雀くらいの、なずき(=額)から首も赤い鳥」。後にたずねた貝沢みさをさん、川上まつ子さん、木村キミさんは知らない由。久保寺の記録(「類歌」を参照)には uyuike-chir の名が見え、これは知里『分類アイヌ語辞典 動物篇』に uyúyke-čir ウゆイケチリ(《アカショウビン》(《ウラカワ》))とある。
イカヨ ヒネ i=kar híne		91	私を変えてくださって	
ホシピアン。 5 hosipi=an.		92	私は帰って来ました。	
アウニ ソイケ タ a=uní soyke ta		93	私の家の前に	
ホシピアン ルウェ ネ ナ、 セコ hosipi=an ruwe ne na, sekó		94	帰って来たのでした。と、	
ボン メナスン マツ pon Menas un mat		95	若いメナシの女の	
ウトウレシコ ペ utureskor pe		96	姉妹が	95)pon ボンを poy ボイと発音しているのは Poysar un kur ボイサルンクル(小沙流の人)などへの連想で起こったものであろう。
アン ルウェ ネ アワ、 10 an ruwe ne awa,		97	いたのですが、	
イサネ ヒケ ライ、 isane hike ray,		98	姉のほうが死に	
ヤイライケ ネ クス yayrayke ne kusu		99	自殺ですから	
ネッ カ アエランベウテッ ノ nep ka a=erámpewtek no		100	ひとには何もわからずに	
ヤイライケ、 yayrayke,		101	自殺したのです。	
オッカイボ トウラ 15 okkaypo tura		102	若者と一緒に	
ヤイライケバ ルウェ ネ アワ、 yayraykepa ruwe ne awa,		103	自殺したのですが、	
ウファイ クスベ トウラシ uhuy ikuspe turasi		104	焼けこげた柱を、	104) uhuy ikuspe ウフイイクスベ は、ここでは死んだために焼いた家の柱。
ケンボチカッポ kempocikappo		105	赤血鳥が	
ニムニム コロ nimunimu kor		106	のぼったりおりたりしながら、	106) 直訳すると《(繰り返しの)のぼりのぼりしながら》。

アコロ サボ a=kor sápo	107	私の姉さんが	107) 3人称叙述のト書きから、いつのまにか、死んで鳥になった女の妹の叙述になっている。次の行からは、妹の言葉の続きのような表現であるが、最後の部分ではまた、その鳥の言った言葉を妹が「聞いた」となっている。このような曲折は、口頭伝承の中では時折起こる。
ヤイレラッ ルウェ ネ ナ、 yayrerap ruwe ne na,	108	嘆き話をしたのですから、	
テ ワノ オカ ウタッ te wano oka utar	109	これからの人たちは	
ネウン オシッコテ オッカイボ néun osikkote okkaypo	110	どんなにほれた男	
ピッカ オッカイボ s pirka okkaypo	111	よい男に	
オシッコテ ヤッカ osikkote yakka	112	ほれても、	
メノコ ヤイエイコラムコロ アナッ menoko yayeikoramkor anak	113	女のほうから求婚するのは	113) yay-e-i-koramkor ヤイ・エ・イ・コラムコロ 《自分・のことについて・人・に相談する》。
アシトマ ッ ネ ナ、 a=sitóma p ne na,	114	恐ろしいことなのですから、	
テ ワノ オカ メノコ te wano oka menoko	115	これからの女は	
イテキ ヤヤンノアシ 10 iteki yayannoas	116	決して自分のほうから	
ヤイエイコラムコロ ヤッ yayeikoramkor yak	117	男に求婚しないほうが	
ピッカ、 セコロ pirka, sekor	118	いいですよ、と	
イトウレシネ メノコ ituresne menoko	119	妹のほうの女性が、	119) 普通、日常語では、tures トウレシは兄妹の関係の妹を言うが、ここでは姉妹の間の妹のことを言っている。それは普通は、mátak マタクと言う。121) 柱は104-106行目で言っているように、焼けこげた柱。
ケンボチカッポ kem pocikappo	120	赤血鳥が	
ニムニム コロ 15 nimunimu kor	121	柱をのぼりおりしながら	
ハウエアナウエ ヌ、 hawean hawe nu,	122	言うのを聞きました、	
セコロ。 sekor.	123	とさ。	

[類歌]これとよく似た内容の神謡が、久保寺逸彦編『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』pp.241-243に筆録されている。伝承者は平日カレピア(荷葉)、1936年。そこでは折り返しは Heinou となっている。